

図書館だより

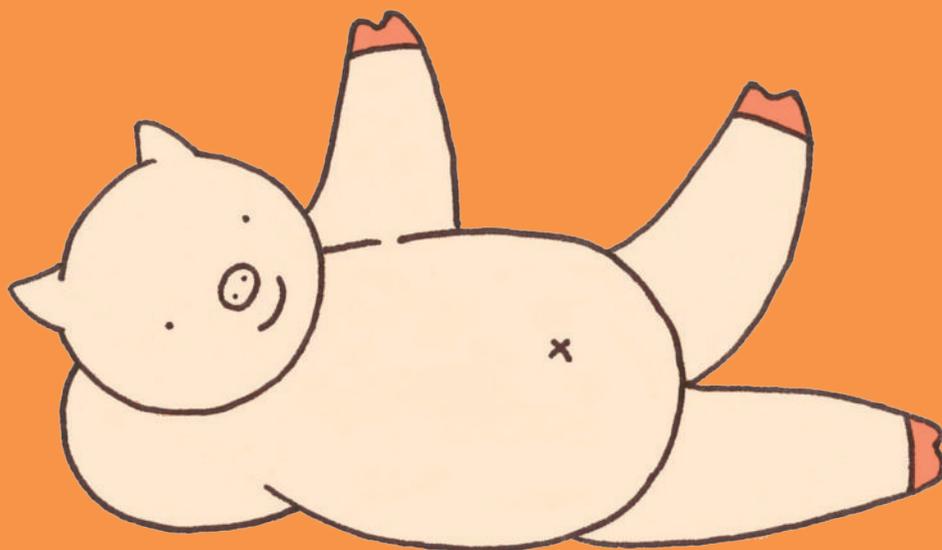
2

vol.37

北海学園大学附属図書館報 第37巻2号(通巻211号) 2015-7-1

国籍と無国籍

法学部教授 館田晶子



私が薦めるこの1冊

人文学部准教授 田中洋也

経済学部准教授 宮入 隆

続々 中井龍の
てなもんや中国留学記

ONLINEで
図書の購入
希望をしよう！

図書館職員の夏休み。
秋の夜長に読書のオススメ



国籍と無国籍

文= 館田晶子

(たてだ あきこ/法学部教授)

2004年に公開されたスティーブン・スピルバーグ監督の『ターミナル』という映画をご存じだろうか。トム・ハンクス演じる主人公は、アメリカの空港に到着すると同時に祖国がクーデターで崩壊してしまい、パスポートが無効になって空港から出られなくなってしまう。

この映画と似たような体験をした人物が、日本にもいる。日本生まれ日本育ちの陳天璽^{チエン・ティエンシー}という女性である。彼女は横浜中華街で台湾華僑を両親として1971年に生まれた。翌1972年の日中国交正常化に伴い、日本は台湾(中華民国)を独立政府と認めなくなった。つまり台湾国籍を認めないということである。日本にいた台湾人たちは、日本に帰化するか中国(中華人民共和国)籍として登録するかのいずれかの選択を迫られることになる。陳さんの両親は様々な葛藤の末、そのどちらも選ばないことを決断した。一家は無国籍となったのである。

陳さんは、成人してから間もない頃、両親と台湾に入国しようとして一人だけ拒否され、さらに返された日本でも入国を拒否されて空港に足止めされた。この経緯は彼女の自伝『無国籍』に詳しい。その後、彼女は研究者となって世界中で多くの無国籍者を調査し、現在は早稲田大学で准教授として無国籍問題を研究するとともに無国籍者の支援と問題解決に尽力している。彼女自身は世界中を飛び回るために30才を過ぎてから日本国籍を取得した。無国籍では自由に海外へ行くこともままならないからである。

* * *

日本にいて普通の生活をしていると、無国籍と聞い

てもピンとこないかもしれない。それどころか、国籍を意識して生活することもほとんどないのではないだろうか。

国籍というのは法的な概念である。個人と国家の法的紐帯と説明され、その国の国民である地位や資格とも言われる。

大多数の人は、生まれると同時にどこかの国の国籍を取得する。これは生来取得と呼ばれる。生来取得には、大きくふたつの方法がある。ひとつは、親がその国の国民であれば子供もその国の国籍を取得する場合で、血統主義という。もうひとつは、その国で生まれればその国の国籍を取得するという場合で、出生地主義という。世界の国々はこのどちらか又は両方のルールをもとに、国籍法制を整え、自国民の範囲を定めている。日本は血統主義を原則としている。つまり親(どちらか一方)が日本国民であればどこで生まれても日本国籍を取得するというのが基本的なルールだ。他方、アメリカは生地主義を原則としているため、アメリカ国内で生まれた子はアメリカ国民ということになる(もちろんどの国にも例外はある)。また、生まれた後で国籍を取得することもある。いわゆる帰化がよく知られているが、そのほかにもいくつかの方式がある。

国籍制度が整っている国であれば、生まれたときから国籍があるのは当たり前の感覚で、空気のような存在だろう。しかし、空気がないところで初めて空気の存在のありがたさを思い知るように、国籍もまた、ない状況に陥ってみないとその意味の大きさには気付かないのかもしれない。

* * *

世界には、様々な理由により国籍を持たない人々が存在する。

1954年に締結された無国籍者の地位に関する条約（無国籍者地位条約）は、無国籍者を「その国の法律の適用によりいずれの国によっても国民と認められないもの」と定義している。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によれば、2014年現在、世界には約1,000万人を超える無国籍者がいると推計されている。日本でも無国籍者は統計上500～600人いるとされているが、統計に表れない者も含めるとその数は数倍に膨らむと言われている。

無国籍になってしまう原因はたくさんある。よく取り上げられるのは、難民が無国籍化する例である。紛争を逃れた難民が避難中に子供を産んだ場合、出生登録ができずにその子が無国籍となってしまうこともある。最近大きな国際問題になっているロヒンギャの人々も、どこの国からも国民として認められていない無国籍状態にある人々である。彼らは日本にも逃れてきている。ロヒンギャに限らず、難民として日本にきた人たちやその子供が無国籍となっている場合は多々ある。出身国の国籍を持っていると推定される場合でも、その国の大使館がそれを認めない場合は、事実上の無国籍といえる。難民問題を扱うUNHCRは無国籍問題にも積極的に取り組んでおり、特に2014年からは10年間、無国籍者をなくすためのキャンペーンを行っている。

日本特有の事情によって無国籍が生じる場合もある。日本ではかつて、沖縄で多くの無国籍児が生まれていることが社会問題になった。当時の日本の国籍法が父系血統主義つまり父親が日本国民の時しか子に日本国籍を認めていなかったことと、アメリカの国籍法が出生地主義を採っていたことから、沖縄つまり日本国内で日本人女性と米軍基地のアメリカ人男性との間に生まれた子が、どちらの国の国籍も取得できないという事態に陥ったのである。これは、各国の法律の食い違いにより無国籍が生じる例である（日本の国籍法はその後、父母両系血統主義に改正されたので、現在はこのような事態は生じない）。

フィリピン残留日本人孤児のように、戦前海外に移住し、敗戦後、現地での差別や迫害を恐れて日本人であることを隠して生きてきた人たちが、国籍を証明

するものをすべて失い、本来は日本国籍を持っているはずなのに無国籍状態になっているような例もある。

無国籍問題の解決のためには、国際的な取り組みが必要であると同時に、それぞれの国の国内的な取り組みも不可欠である。出入国の手続、社会保障、行政窓口の対応、人々の差別意識など、人権問題に直結する課題が山積している。在留資格が得られない場合はより深刻だ。この辺りについては、国連大学で行われたシンポジウムの記録である『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』という本が参考になる。

* * *

「あなたは何人ですか」と聞かれたとき、人は何と答えるだろうか。両親が日本人で日本で生まれ育った人なら、日本人ですと答えるだろう。同じように、アメリカ人の両親からアメリカで生まれた人は、アメリカ人ですと答えるかもしれない。

しかし、無国籍者はこの問いへの答えにたどり着くまでに、多くの葛藤と苦労を経ることが多い。法制度の壁、理不尽な扱いや差別、周囲との違い等に直面する中で、自分は何人なのか、一体何者なのかについて、深刻な悩みを抱えてしまう。アイデンティティの危機はマイノリティ全般に指摘される問題でもあるが、無国籍者の場合はそれが法的地位に起因するという意味で特徴的とも言える。法制度がアイデンティティを左右する原因となるのである。

一方で、無国籍者ということそれ自体にアイデンティティを見いだす人もいる。六本木の赤ヒゲと呼ばれたエフゲニー・アクシヨーノフ医師は、戦前日本に移住し、終戦とともに国籍を失ってから2014年に90歳で亡くなるまで、無国籍のままだった。アクシヨーノフ医師の診察ぶりについては、最近コミックエッセイが出ている。是非、手にとって頂きたい。

『ターミナル』監督・製作スティーブン・スピルバーグ／出演トム・ハンクス、キャサリン・ゼタ＝ジョーンズ／アメリカ・2004 [開架・AV資料 請求番号：778.253/TER]

陳天璽『無国籍』新潮社・2005 [開架2F 請求番号：329.91/CHI] /新潮文庫・2011

陳天璽編『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』明石書店・2010 [開架2F 請求番号：329.91/CHI]

山本ルミ原案／世取アスカ漫画『患者さまは外国人 無国籍ドクターと空飛ぶナースのドタバタ診療日誌』阪急コミュニケーションズ・2014 [開架3F 請求番号：498.04/YAM]

私が薦める
この1冊

David Crystal 著

『A Little Book of Language』

(Yale University Press)

文=田中洋也

(たなか ひろや/人文学部准教授)

英語の本？ 読めない！ そういう方に語学教師として本書を薦める理由が2つあります。ひとつは本書が独立した40の章から成り、ひとつの章が4～6ページ程度の平易な英語で書かれていることです。どの章から読み始めても十分に理解可能な構成になっています。もうひとつは、本書はヒトに固有の能力である言語やその関連分野について多角的に扱っており、言語学に興味がない方にとっても言語やそれを用いたコミュニケーションについて見直すべきかけを与えてくれる良書であることです。

著者のクリスタル (Crystal) は、1941年、北アイルランドに生まれ、10歳の時にイングランドのリバプール (Liverpool) に移り、その後、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンで言語学を研究します。さらに、バンガー大学 (ウェールズ語ではバンゴール)、レディング大学で言語学を教え、現在は言語

学関連の執筆活動だけではなく、TV・ラジオ放送活動、シェイクスピア演劇の発音指導からインターネット英語の分析など、幅広い分野で活躍し、言語やその関連分野を分かりやすく説くことに定評があります。

本書でも、「泣き声から言葉に」(第2章)、「読み書きできるようになること」(第8章)といった言語獲得の話題、「訛りと方言」(第12章)、「消滅する言語」(第20章)などの社会と言語に関する話題から、「電子(コンピュータ)革命」(第29章)、「テキスティング言語」(第30章)など現代英語の実態に関する話題まで幅広く取り扱われています。もしかすると、英語の書籍を通読したことがない人も、興味がある章から読み進め、気がつけば1冊読み終えていたということもあるかもしれません。

私が薦める
この1冊

横山 智 著

『納豆の起源』

(NHK出版、2014年)

文=宮入 隆

(みやいり たかし/経済学部准教授)

秋田で納豆業界について調査をしたことがある。納豆は大好きだが、それまで納豆製造について深く考えたことはなかった。たまたま学生が、卒論で農商工連携の可能性を研究したいということで、大豆生産と地元の納豆製造業者の調査をしたのがキッカケだった。

いま納豆業界は、スーパーの安売りに対応できる大手製造業者を中心に寡占化が進み、9社が市場シェアの90%以上を占めるまでになっている。そのうちの1つが秋田の製造業者だ。なぜ、東北の1業者が厳しさを増す納豆業界で生き残れたのか。理由は、地域で栽培されてきた大豆の特徴を活かした製造技術の開発である。代表的な茨城の「小粒」納豆に対し、秋田では昔から大粒大豆の生産が盛んで、それ故に早くから「ひきわり納豆」の独自製造技術が業者によって開発されてきた。結果として「ひきわり納豆」部門では、秋田の業者が最大のシェアを獲得していた。

また、秋田県湯沢市には「納豆発祥の地」の碑が

あり、真相はともかく、堂々と日本における納豆の起源を宣言していた。このことにも興味を持ったが、以来、調べることはなかった。本書を手にとったのは、まさにそれが気になったからである。

著者は、東南アジアやヒマラヤ地域での現地調査を積み重ねて、納豆の起源に接近していくが、日本の納豆の起源はもとより、書名に対する明確な結論には至っていない。それでも納豆を事例に、各地の植物利用と食文化のつながりや多様性、フィールド調査の難しさとおもしろさが随所で語られ、分野を超えた幅広い研究成果も踏まえて仮説が提示される知的刺激に満ちた1冊であった。

グローバル化と技術革新は、地域固有の食文化を変化させ、消滅させつつある。納豆も例外ではなく、日本ではワラ苞納豆が消え、原料の大豆はほとんどが輸入品だ。本書は、自然と食の関係、そしてアジアの中の日本を再発見させてくれる点でも意義深い。

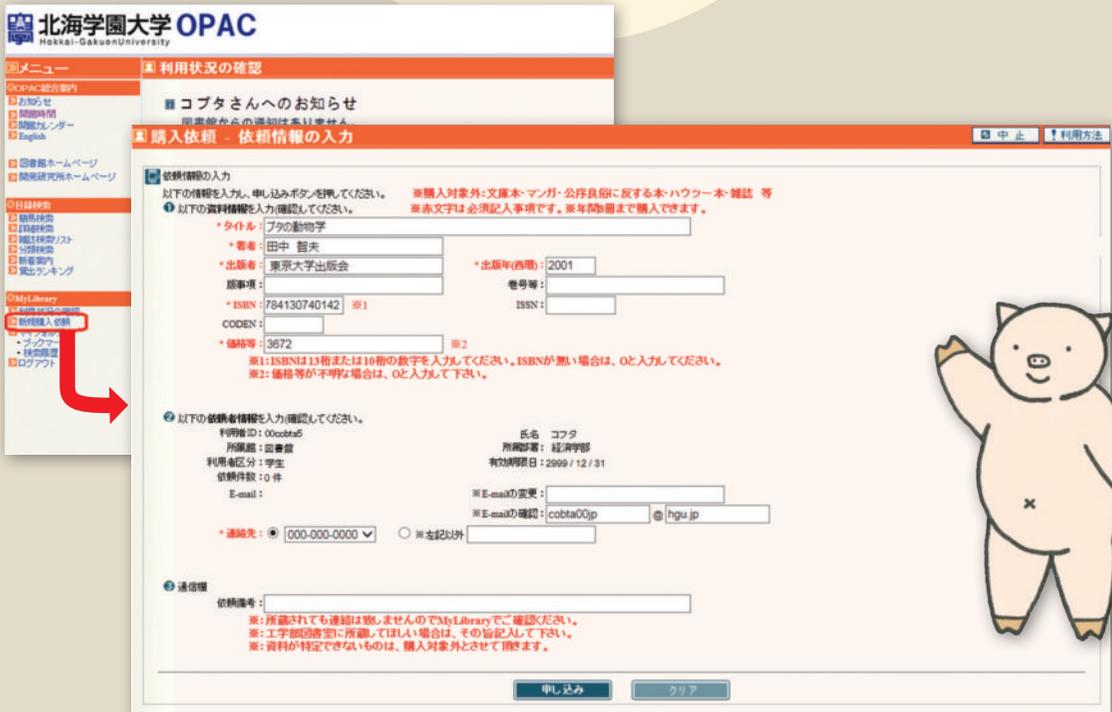
ONLINEで図書の購入希望をしよう!の巻



図書を購入希望するには MyLibrary から行います。
MyLibrary は、G-PLUS または図書館の HP から開けます。



メニューの「新規購入依頼」をクリックすると購入依頼画面になります。



申し込み後は、「利用状況の確認」の「購入依頼」をクリックしてください。
なお、予算がなくなり次第、終了します。

夏休み・秋の夜長に 読書のオススメ

- えー、今回は、『夏休み・秋の夜長に読書のオススメ』ということで、先ず最初は……
- では私からいきます。いろいろ考えて、今回のテーマが夏休み、ということで、せっかくの長期の休みで時間も沢山あるので、ぜひ旅行に行ってください。で、「死ぬまでに行きたい! 世界の絶景」という本がありまして、図書館にあるのは2013年出版なんですけど、今もこのシリーズは新しい本が出版されているようです。昔CMでも放映されていた、この地中海の空中に船が浮かんで見えるような写真も載っているんですが。
- おお、浮かんで見えますな、CG？
- あまりに透明度が高くてこのように見えるんだそうです。この他にも世界のとても美しい景色が掲載されています。学生だと金銭面で難しくて、そんなとこまで行けないよ、という人には「日本編」に掲載されている名寄の向日葵畑、ちょうどこれから夏にかけての季節に見ることができるので、実際行ってみたいのでは？ 学生なら、頑張れば自転車でも行けるんじゃないかな。長期の休みを取れるのは学生の時くらいなので、大学の4年間の中で旅に行けたらいいな、と思いこの本を取り上げました。同じく「日本編」の中にある東北の花火の写真、これは大曲の花火大会で、毎年テレビでも中継されるくらい有名な大会ですよ。これも現地で見たら凄そうです。他にも色々な絶景が掲載されているので、この本を参考にしてぜひ旅に行ってください。
- 見ているだけでも、きれいでいいなあ。
- 次はですね、図書館外持ち出し禁止の本なんですけど「東京時代 MAP 大江戸編」という本です。歴史の古い街だと、元々色々な建物がそこにあって、その上に現在の街並みができあがっている、で、この本は江戸時代でも元禄から幕末あたりまでが掲載されていて、古い地図の次のページに半透明の薄紙で現在の地図が印刷してあり、重ねて見ることができるんです。例えば、薄紙に東京スカイツリーがあるんですが、古地図を重ねると、江戸時代は何もないところだったと、わかります。
- これはおもしろいですねー。
- 歴史事件の舞台になっているところ、桜田門外の変など、実際にこれで見ると今は史跡が立っているであろう場所は憲政記念館あたりで、実際、井伊直弼が住んでいた藩邸があるんですね。他にも、赤穂浪士の討ち入りで、吉良邸がどこにあった、とか義士の討ち入りのルートも掲載されているんですよ。
- 討ち入りのルートは長いねー、昔の人は健脚だなあ。
- これを読んで、何か東京に行く機会があれば、これは昔こういうことがあったんだなー、と思い起こしてもらえれば、と思いました。今、紹介したのは東京ですが、京都もあって、こちら面白いんです。個人的にも「京都時代 MAP 幕末・維新編」を買ってしまいました。これも図書館に所蔵されています。
- 歴史好きな人以外の方も楽しめそうですねー。
- えー、最後に「日本料理のだしの基本」という本です。2013年に和食が無形文化遺産に登録されました。僕も日本料理はどういう組み立てで出来ているのか疑問に思い、この本を手にとったんですが、やはり独特の出汁の文化、旨味が大きく関わっていたんですね。代表的なのは昆布や、カツオ、変わったものではスッポンもあります。あと、その出汁を使った料理方法なども、一番出汁だとコレ、二番出汁だと若干雑身がでるのでコレとか、関西と関東の違いなども詳しく載っています。日本料理が世界から注目されているのと、僕たちがどのようなものを食べてきたのか、ということをも改めて考えるための、ちょっとした機会になればいいな、と思いこの本を紹介しました。また、夏休中や秋の夜長に、この本を読んで料理に挑戦してみたいかがでしょうか。
- ふーん、トウキビの芯でダシをとったりもするんですねー。どんな風味になるんだろう？ 今度やってみようかなあ。
では、私から、まず1冊目「ゴミ屋敷奮闘記」です。これはライターである著者がゴミ屋敷の取材のため、掃除業者のスタッフになってゴミ屋敷を掃除する、という内容です。ゴミ屋敷ってニュースでは戸建ての家が多いんですが、この本にでてくるのはほぼ賃貸物件で、これがスゴイ。部屋に入ると、そのとたん腐敗臭がし、食べ残しの入った弁当ガラ、空き缶、ペットのフン、はてはお金までそこらじゅうに散らばっている。清掃後、札を数えると、なんと200万円以上あった話もあります。ゴミ屋敷の住人というと、ちょっとアレな人、というイメージが私にはあったんですが、この本に出てくる人は普通の勤め人なんですよ。中には若くてきれいな女性もいます。これも意外でした。最初はちょっと掃除をさぼっていたのが、いつの間にかどんどんゴミがたまり、手がつけられなくなり、やがて何年も放置、というかゴミが堆積していくようです。で、写真もいろいろあって……

- これ、ゴミが床から何メートルか溜まっていますよね。
- そうそう、で、溜まったら、そこに敷物を敷いて、また溜まったら…と繰り返す。最終的には地層ができる、と(笑)。
- でも、その人たちが綺麗にしたいと思っているんですね。
- うん、申し訳ないと思いつつ、最終的には業者さんの手を借りることになるようです。まあ、私もだらしがない方なので、自戒も含めオススメの一冊です。
- 僕も気をつけます(笑)。
- もう1冊は「振り込め犯罪結社」という本です。昨年度は380億円という巨額な被害を生みだしている振り込め詐欺ですが、どのような組織が実行しているのか、その実態を記した本です。まず最初にかかっているのは、実際に電話をかける「プレーヤー」と呼ばれる人たちの研修なのですが、これがもう凄まじいんです。内容は本書を読んでいただくとして、そうして訓練されて選び抜かれた者が電話をかけます。で、組織は様々な役割分担で構成されていて、外部業者である電話等通信環境担当の「道具屋」や過去に詐欺の被害にあった等、様々な人たちのリストを売買する「名簿屋」、そして現金を引き出す「ダシ子」「受け子」、電話をかける「プレーヤー」、それらを管理・運営する「番頭」。
- すごい、本当に組織立っているんですね。
- ええ、あとこの組織のトップである「金主」と分かれています。で、それぞれの間には徹底したセキュリティと危機管理がなされていて、よく逮捕されているのは最下層の「ダシ子」、[受け子]で、それ以上辿れないようになっていっているんですね。で、中には騙される、というより恐喝・脅迫されている被害者も数多くいるようで、ウソだと分かっている、お金を取られているケースもあるみたい。
- ということですか？
- 名簿に子供の名前や孫の学校名も掲載されていて、それらを仄めかされながら余りにしつこく脅迫的な電話がくるので、それから逃れたいがためにお金を払う、と。
- それ、詐欺じゃなくて本当に恐喝ですね。
- この本は、加害者側からの聞き取りのみで構成されていて、ともすると不良の青春譚のようで、人によっては愉快ならざる方もいるかもしれませんが、知らないことが多くて、いろいろと勉強になりました。それでは、●さん、最後までお願いします。
- はい、写真家の星野道夫さんの「旅をする木」を紹介します。星野さんはアラスカで自然や動物を撮影していた方なのですが、現地には友達もたくさんいたようです。例えば、マイナス40℃の中を平気で自転車を漕ぐおじいさんとか、アラスカの歴史の生き字引のような古本屋のおばあさん、あとブッシュパイロット(アラスカなどの雪上や荒れ地等で物資を輸送するパイロット)たちの話などが本書の中に出てきます。

辺境の地に赴いて写真を撮る人っただけで、勝手に孤高な性格なのかと決め込んでいましたが、案外人好きなのかな、と思いました。で、この本を読んでいると氷河やオーロラなどの話もたくさん出てくるのですが、それはどんな景色なんだろう、とだんだん気になってくるんです。そこで、本書とセットでオススメなのが星野道夫の写真集「星の物語」「風の物語」「愛の物語」の三部作です。エッセイ集の中に出てきた風景を写真でも見られたら面白いかな、と思い取り上げました。星野さんの本を読んでいると、死をととも意識しているんですね。普段我々は日常で死について考えることは少ないですが、星野さんは自然の中にいることが多いので、死を意識することが多い。人はいつ死ぬかわからないと常々言っていて、だからこそ生きている時間を充実させなければ、というのが彼のメッセージなんです。

- 人間はいつ、どうなるかわかりませんからね。
- そうですね。だから、もし興味があつて気になることがあれば後悔するより行動した方がいいのではないかと、思うんですね。絶景を見に行くとか、出汁をとるとか。
- 出汁もですか(笑)。前に座談会でも話をしたと思うけど、本を読むことによって疑似体験をしている部分があり、どんな本でも自分で体験できないことを書いているところがあつて、読めば何かの足しになると思うんですね。今回紹介した本も、これを読んでいただくことによって、何かこれからについてヒントを得られればよいかな、と。
- それぞれ最後に一言もらおうかと思いましたが、何かもう、素晴らしいまとめの言葉が出てしまいました(笑)。夏休みと秋の夜長に、ぜひ楽しい読書をしてください。では、また！！



今回紹介した本

- 「死ぬまでに行きたい! 世界の絶景」 詩歩 著 三オブックス
- 「死ぬまでに行きたい! 世界の絶景 日本編」 詩歩 著 三オブックス
- 「東京時代 MAP 大江戸編」 新創社編 光村推古書院
- 「京都時代 MAP 幕末・維新編」 新創社編 光村推古書院
- 「日本料理のだしの基本」 桜田五十鈴 中東久雄 門脇俊哉 著 ナツメ社
- 「ゴミ屋敷奮闘記」 村田らむ 著 有峰書店新社
- 「振り込め犯罪結社」 鈴木大介 著 宝島社
- 「旅をする木」 星野道夫 著 文藝春秋
- 「星の物語 Alaskan Dream 1」
- 「風の物語 Alaskan Dream 2」
- 「愛の物語 Alaskan Dream 3」 星野道夫 著 阪急コミュニケーションズ

続々 中井龍の てなもんや中国留学記

文=中井龍

(なかいりょう/図書館職員)

東日本大震災の発生した日、私は中国山東大学に留学中でした。日本では放映されなかったであろう悲惨な映像を目にするたび、私は胸が張り裂かれんばかりになりました。母国の災害を海外で知るといことは実に辛いものです。何をしても落ち着きません。留学先の知人・友人・先生たち、行きつけの食堂のおばちゃんが大変日本を心配し、又、私を励ましてくれて、私は思わず皆の前で号泣しました。どこに行っても、優しい人たちはいますね。ありがたいことです。その後、日本人留学生全員の家族の安否を確認して少しほっとしたもの、いてもたってもいられず、被災地の方のために何かできないかと考え、他の日本人留学生と話し合い、募金活動をしました。33カ国の留学生と共に連携し活動しました。これは私にとって非常

に忘れられない思い出となりました。

募金活動をしたことによって気づかされたことがあります。第一に、ボランティアは自己満足であってはならないということ。活動をする際、募金とともに折り鶴もお願いしましたが、これは安易な発想であって、受け入れ先に苦慮しました。結果的に大連の福島県事務所や岩手県事務所の職員の方のご協力で受け入れて頂くことが出来ましたが、実際にはご迷惑だったのではないかと思います。第二に、マスメディアの報道内容をそのまま信用できないということ。私は中国のマスメディア5社から取材を受けましたが、実際に放映された内容は事実と違いました。日本も然り。意図が先にありきです。メディアの報道を鵜呑みにしないでいろいろな視点から事実を考察すべきと私は思っています。

図書館からのお知らせ

- **夏季休業期間の長期貸出**
期間：7月22日(水)～9月14日(月)
長期貸出返却日：9月29日(火)
- **定期試験のための日曜特別開館(豊平校舎)**
7月26日(日)、8月2日(日)
時間：10:00～16:00
- **全学休業に伴う休館(豊平・工学部校舎)**
8月13日(木)～8月15日(土)
- **夏季休業期間の工学部図書室開館時間変更**
期間：8月6日(木)～9月10日(木)
月・水・金曜日 9:00～19:30
火・木曜日 9:00～17:00
土曜日 9:00～12:50
- **蔵書点検に伴う閉館(豊平・工学部校舎)**
期間：9月15日(火)～9月18日(金)

編集後記

- 暑さ寒さも定期試験まで、ということで、楽しい夏季休業のためにも皆さん頑張ってください。くれぐれも試験時間の遅刻、学生証の忘れ物には注意してください。
- 図書館では、昨年夏に送風の工事をしました。空調とは違うのですが、夏の暑さ対策もしています。効果のほどはどうでしょうか？下記のメール宛てに、ぜひ感想をお寄せください。
- 今号は夏・秋号ですが、長く寒い冬の前の駆け足のような季節、夏は海、山、花火、そして美味しい秋の味覚と十分に楽しみたいですね。
- 今回も原稿執筆に際し、教職員の方には、たいへん御世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

✉ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第37巻2号(通巻211号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL (011) 841-1161 印刷所:(株)アイワード